

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6355531号
(P6355531)

(45) 発行日 平成30年7月11日 (2018. 7. 11)

(24) 登録日 平成30年6月22日 (2018. 6. 22)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 B 1/045 (2006. 01)

A 6 1 B 1/045 6 3 1

A 6 1 B 1/06 (2006. 01)

A 6 1 B 1/06 6 1 1

G 0 2 B 23/26 (2006. 01)

G 0 2 B 23/26 D

請求項の数 8 (全 18 頁)

(21) 出願番号 特願2014-225928 (P2014-225928)
 (22) 出願日 平成26年11月6日 (2014. 11. 6)
 (65) 公開番号 特開2016-87135 (P2016-87135A)
 (43) 公開日 平成28年5月23日 (2016. 5. 23)
 審査請求日 平成29年2月10日 (2017. 2. 10)

(73) 特許権者 306037311
 富士フイルム株式会社
 東京都港区西麻布2丁目26番30号
 (74) 代理人 110001988
 特許業務法人小林国際特許事務所
 (72) 発明者 久保 雅裕
 神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地
 富士フイルム株式会社内

審査官 磯野 光司

(56) 参考文献 米国特許出願公開第2014/0163
 319 (US, A1)

(58) 調査した分野 (Int. Cl., DB 名)
 A 6 1 B 1/00-1/32

(54) 【発明の名称】 内視鏡用光源装置、内視鏡システム及びその作動方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

色が異なる第1光、第2光、第3光をそれぞれ照明光として発する光源部と、
 前記照明光の発光タイミングを制御して、前記第1光、前記第2光、及び前記第3光の
 発光開始タイミングまたは発光終了タイミングを同時とし、かつ、前記第1光の発光時間
 を前記第2光及び前記第3光の発光時間より長くする光源制御部と、を備え、
前記光源制御部は、前記第1光、前記第2光、及び前記第3光の発光開始タイミングを
同時とし、前記第2光及び前記第3光の発光終了後に、前記第1光の発光強度を大きくす
る内視鏡用光源装置。

【請求項 2】

前記光源制御部は、前記第2光と前記第3光との発光終了タイミングを異ならせ、前記
 第3光の発光が終了した後に、前記第2光の発光を終了させる請求項1記載の内視鏡用光
 源装置。

【請求項 3】

前記光源制御部は、前記第3光の発光終了後に、前記第2光の発光強度を大きくする請
 求項2記載の内視鏡用光源装置。

【請求項 4】

前記光源制御部は、前記第1光、前記第2光、及び前記第3光を同時に発光させる期間
 において、前記第1光の発光強度を、前記第2光及び前記第3光の発光強度よりも小さく
 する請求項1から3いずれか1項に記載の内視鏡用光源装置。

10

20

【請求項 5】

前記第 1 光は赤色光であり、前記第 2 光は緑色光であり、前記第 3 光は青色光である請求項 1 から 4 いずれか 1 項に記載の内視鏡用光源装置。

【請求項 6】

色が異なる第 1 光、第 2 光、第 3 光をそれぞれ照明光として発する光源部と、
前記照明光の発光タイミングを制御して、前記第 1 光、前記第 2 光、及び前記第 3 光の発光開始タイミングまたは発光終了タイミングを同時とし、かつ、前記第 1 光の発光時間を前記第 2 光及び前記第 3 光の発光時間より長くする光源制御部と、を備える内視鏡用光源装置と、

前記照明光が照射された観察対象からの戻り光を、前記色ごとに受光可能で、かつ前記色ごとに受光期間が変更可能である撮像素子と、

前記撮像素子の少なくとも前記第 1 光に対する前記受光期間を前記第 1 光の発光期間に一致させる撮像制御部と、

を備える内視鏡システム。

【請求項 7】

前記撮像制御部は、前記撮像素子の前記第 1 光に対する前記受光期間を前記第 1 光の発光期間に一致させ、前記第 2 光に対する前記受光期間を前記第 2 光の発光期間に一致させ、前記第 3 光に対する前記受光期間を前記第 3 光の発光期間に一致させる請求項 6 記載の内視鏡システム。

【請求項 8】

色が異なる第 1 光、第 2 光、第 3 光をそれぞれ照明光として発する光源部と、前記照明光が照射された観察対象からの戻り光を、前記色ごとに受光可能で、かつ前記色ごとに受光期間が変更可能である撮像素子とを備える内視鏡システムの作動方法において、前記照明光の発光タイミングを制御して、前記第 1 光、前記第 2 光、及び前記第 3 光の発光開始タイミングまたは発光終了タイミングを同時とし、かつ、前記第 1 光の発光時間を前記第 2 光及び前記第 3 光の発光時間より長くし、前記撮像素子の少なくとも前記第 1 光に対する前記受光期間を前記第 1 光の発光期間に一致させる内視鏡システムの作動方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内視鏡用光源装置、内視鏡システム及びその作動方法に関する。

【背景技術】

【0002】

医療分野においては、内視鏡用光源装置（以下、光源装置という）、内視鏡、及びプロセッサ装置を備える内視鏡システムを用いた診断が広く行われている。光源装置は、体腔の粘膜等の観察対象に照射する照明光を生成する装置である。内視鏡は、照明光が照射された観察対象を撮像する撮像素子を有している。

【0003】

この内視鏡システムとしては、照明光として白色光を発する光源装置を用い、撮像素子として同時式のカラーセンサを用いるものが知られている。このカラーセンサは、観察対象から内視鏡に入射する入射光を青色（B）光、緑色（G）光、赤色（R）光に分光して同時に撮像する。

【0004】

光源装置から発せられる白色光は、光源の特性によって B 光、G 光、R 光の各光量が異なることや、撮像素子の分光感度特性が色ごとに異なることから、色ごとの光量調整を可能とした光源装置が知られている（特許文献 1 参照）。この光源装置は、白色光に含まれる B 光、G 光、R 光の各光量を調整可能とする。特に、特許文献 1 では、B 光の光量を G 光の光量より大きくし、G 光の光量を B 光の光量より大きくすること（すなわち、B 光 > G 光 > R 光）が好ましいとされている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2012-125395号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

観察対象のうち大腸の粘膜組織等は、波長が短いほど光反射率が小さいという特性を有する一方で、粘膜組織の表層からの戻り光は、波長の短い光が支配的である。この粘膜組織の表層には、毛細血管等の微細構造が含まれるので、この微細構造を含めた画像を生成するためには、特許文献1に記載のように、光源装置が発する各色の光量を「B光>G光>R光」の関係とすることが好ましい。但し、このとき、撮像素子の撮像信号レベルが「B画素信号>G画素信号>R画素信号」の関係となり、R画素信号のレベルが低下する場合がある。

10

【0007】

特許文献1には、B画素信号とG画素信号とを用いて特殊光観察画像を生成することが記載されている。このような特殊光観察では、画像生成にはR画素信号を用いないため、上記の光量の関係による画質低下の影響は少ない。しかしながら、近年では、白色光を用いて撮像した画像に対して画像処理を施し、正常部と病変部の境界領域を明瞭化するための色彩強調処理に注目が集まっている。このように、色彩強調処理を行う場合には、赤色

20

【0008】

本発明は、赤色画像の画質を向上させ、色彩強調処理により高画質な観察画像を得ることを可能とする内視鏡用光源装置、内視鏡システム及びその作動方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記目的を達成するために、本発明の内視鏡用光源装置は、色が異なる第1光、第2光、第3光をそれぞれ照明光として発する光源部と、照明光の発光タイミングを制御して、第1光、第2光、及び第3光の発光開始タイミングまたは発光終了タイミングを同時とし、かつ、第1光の発光時間を第2光及び第3光の発光時間より長くする光源制御部とを備える。

30

【0010】

光源制御部は、第1光、第2光、及び第3光の発光開始タイミングを同時とすることが好ましい。

【0011】

光源制御部は、第2光及び第3光の発光終了後に、第1光の発光強度を大きくすることが好ましい。

【0012】

光源制御部は、第2光と第3光との発光終了タイミングを異ならせ、第3光の発光が終了した後に、第2光の発光を終了させることが好ましい。

40

【0013】

光源制御部は、第3光の発光終了後に、第2光の発光強度を大きくすることが好ましい。

【0014】

光源制御部は、第1光、第2光、及び第3光を同時に発光させる期間において、第1光の発光強度を、第2光及び第3光の発光強度よりも小さくすることが好ましい。

【0015】

第1光は赤色光であり、第2光は緑色光であり、第3光は青色光であることが好ましい。

50

【 0 0 1 6 】

本発明の内視鏡システムは、上記いずれかの内視鏡用光源装置と、照明光が照射された観察対象からの戻り光を、色ごとに受光可能で、かつ色ごとに受光期間が変更可能である撮像素子と、撮像素子の少なくとも第 1 光に対する受光期間を第 1 光の発光期間に一致させる撮像制御部とを備える。

【 0 0 1 7 】

撮像制御部は、撮像素子の第 1 光に対する受光期間を第 1 光の発光期間に一致させ、第 2 光に対する受光期間を第 2 光の発光期間に一致させ、第 3 光に対する受光期間を第 3 光の発光期間に一致させることが好ましい。

【 0 0 1 8 】

本発明の内視鏡システムの作動方法は、色が異なる第 1 光、第 2 光、第 3 光をそれぞれ照明光として発する光源部と、照明光が照射された観察対象からの戻り光を、色ごとに受光可能で、かつ色ごとに受光期間が変更可能である撮像素子とを備える内視鏡システムの作動方法において、照明光の発光タイミングを制御して、第 1 光、第 2 光、及び第 3 光の発光開始タイミングまたは発光終了タイミングを同時とし、かつ、第 1 光の発光時間を第 2 光及び第 3 光の発光時間より長くし、撮像素子の少なくとも第 1 光に対する受光期間を第 1 光の発光期間に一致させる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 9 】

本発明によれば、第 1 光、第 2 光、及び第 3 光の発光開始タイミングまたは発光終了タイミングを同時とし、かつ、第 1 光（赤色光）の発光時間を第 2 光及び第 3 光の発光時間より長くするので、赤色画像の画質が向上し、色彩強調処理により高画質な観察画像を得ることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 0 】

【図 1】内視鏡システムの外觀図である。

【図 2】内視鏡システムの機能を示すブロック図である。

【図 3】撮像素子の構成を示す図である。

【図 4】カラーフィルタの色配列を示す図である。

【図 5】カラーフィルタの分光特性を示す図である。

【図 6】撮像素子の画素の構成を示す図である。

【図 7】発光及び撮像のタイミングを示す図である。

【図 8】粘膜の分光反射率を示すグラフである。

【図 9】グローバルシャッター方式の発光及び撮像のタイミングを示す図である。

【図 10】発光動作中に赤色光の発光強度を変更する例を示すタイミング図である。

【図 11】発光動作中に赤色光の発光強度を変更する場合において、ローリングシャッター方式を用いたタイミング図である。

【図 12】発光動作中に緑色光及び赤色光の発光強度を変更する例を示すタイミング図である。

【図 13】発光動作中に緑色光及び赤色光の発光強度を変更する第 2 の例を示すタイミング図である。

【図 14】第 2 実施形態の撮像素子の構成を示す図である。

【図 15】第 2 実施形態の撮像素子の画素の構成を示す図である。

【図 16】第 2 実施形態の発光及び撮像のタイミングを示す図である。

【図 17】発光動作中に赤色光の発光強度を変更する例を示すタイミング図である。

【図 18】発光動作中に緑色光及び赤色光の発光強度を変更する例を示すタイミング図である。

【図 19】発光動作中に緑色光及び赤色光の発光強度を変更する第 2 の例を示すタイミング図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 2 1 】

[第 1 実施形態]

図 1 において、内視鏡システム 1 0 は、内視鏡 1 2 と、内視鏡用光源装置（以下、光源装置という）1 4 と、プロセッサ装置 1 6 と、モニタ 1 8 と、コンソール 1 9 とを備えている。内視鏡 1 2 は、光源装置 1 4 と光学的に接続されるとともに、プロセッサ装置 1 6 と電氣的に接続される。内視鏡 1 2 は、体腔内に挿入される挿入部 1 2 a と、挿入部 1 2 a の基端部分に設けられた操作部 1 2 b と、挿入部 1 2 a の先端側に設けられた湾曲部 1 2 c 及び先端部 1 2 d を有している。

【 0 0 2 2 】

操作部 1 2 b のアングルノブ 1 2 e を操作することにより、湾曲部 1 2 c は湾曲動作する。この湾曲動作によって、先端部 1 2 d が所望の方向に向けられる。操作部 1 2 b には、アングルノブ 1 2 e の他、ズーム操作部 1 3 等が設けられている。

10

【 0 0 2 3 】

光源装置 1 4 は、照明光として白色光を発生し、内視鏡 1 2 に供給する。内視鏡 1 2 に供給された照明光は、先端部 1 2 d に導かれ、先端部 1 2 d から体腔内の観察対象に照射される。

【 0 0 2 4 】

プロセッサ装置 1 6 は、モニタ 1 8 及びコンソール 1 9 と電氣的に接続される。モニタ 1 8 は、観察画像や、観察画像に付帯する画像情報等を出力表示する。コンソール 1 9 は、機能設定等の入力操作を受け付けるユーザインタフェースとして機能する。なお、プロセッサ装置 1 6 には、観察画像や画像情報等を記録する外付けの記録部（図示せず）が接続可能である。

20

【 0 0 2 5 】

図 2 に示すように、光源装置 1 4 は、観察対象を照明するための照明光を発生する光源部 2 0 と、光源部 2 0 の発光強度及び発光タイミングを制御する光源制御部 2 1 とを備えている。光源部 2 0 は、駆動部 2 2 と、第 1 ～ 第 3 光源 2 3 a ～ 2 3 c と、光路統合部 2 4 とを有する。駆動部 2 2 は、光源制御部 2 1 からの制御に基づいて、第 1 ～ 第 3 光源 2 3 a ～ 2 3 c をそれぞれ駆動する。

【 0 0 2 6 】

第 1 光源 2 3 a は、赤色光（第 1 光）L R を発する赤色 L E D（Light-emitting diode）である。この赤色光 L R は、例えば、波長帯域が 6 1 5 n m ～ 6 3 5 n m であり、中心波長が $6 2 0 \pm 1 0$ n m である。第 2 光源 2 3 b は、緑色光（第 2 光）L G を発する緑色 L E D である。この緑色光 L G は、例えば、波長帯域が 5 0 0 n m ～ 6 0 0 n m であり、中心波長が $5 2 0 \pm 1 0$ n m である。第 3 光源 2 3 c は、青色光（第 3 光）L B を発する青色 L E D である。この青色光 L B は、例えば、波長帯域が 4 4 0 n m ～ 4 7 0 n m であり、中心波長が $4 5 5 \pm 1 0$ n m である。

30

【 0 0 2 7 】

光路統合部 2 4 は、ダイクロイックミラー等で構成され、第 1 ～ 第 3 光源 2 3 a ～ 2 3 c から発せられる各光の光路を統合する。光路統合部 2 4 から射出された光は、照明光として、挿入部 1 2 a 内に挿通されたライトガイド 2 5 に供給される。

40

【 0 0 2 8 】

ライトガイド 2 5 は、内視鏡 1 2 内に内蔵されており、照明光を内視鏡 1 2 の先端部 1 2 d まで伝搬させる。なお、ライトガイド 2 5 としては、マルチモードファイバを使用することができる。例えば、コア径 1 0 5 μ m、クラッド径 1 2 5 μ m、外皮となる保護層を含めた径が $\phi 0.3 \sim 0.5$ m m の細径なファイバケーブルをライトガイド 2 5 として使用可能である。

【 0 0 2 9 】

内視鏡 1 2 の先端部 1 2 d には、照明光学系 3 0 a と撮像光学系 3 0 b が設けられている。照明光学系 3 0 a は、照明レンズ 3 1 を有している。ライトガイド 2 5 内を伝搬した照明光は、照明レンズ 3 1 を介して観察対象に照射される。撮像光学系 3 0 b は、対物レ

50

レンズ 32、ズームレンズ 33、撮像素子 34 を有している。観察対象からの戻り光は、対物レンズ 32 及びズームレンズ 33 を介して撮像素子 34 に入射する。これにより、撮像素子 34 の撮像面（図示せず）に観察対象の光像が結像される。なお、ズームレンズ 33 は、ズーム操作部 13 を操作することで、テレ端とワイド端の間で自在に移動され、撮像素子 34 の撮像面に結像する観察対象の光像を拡大または縮小する。

【0030】

撮像素子 34 は、同時式のカラーセンサであり、照明光が照射された観察対象からの戻り光を受光して画像信号を出力する。この撮像素子 34 は、青色（B）、緑色（G）、赤色（R）の色ごとに受光可能で、かつ色ごとに受光期間が変更可能である。この撮像素子 34 としては、CMOS（Complementary Metal-Oxide Semiconductor）型撮像素子が用いられる。撮像素子 34 は、画像信号として、B 画素信号、G 画素信号、R 画素信号からなる RGB 画像信号を出力する。

10

【0031】

プロセッサ装置 16 は、撮像制御部 40 と、受信部 41 と、DSP（Digital Signal Processor）42 と、ノイズ除去部 43 と、観察画像生成部 44 と、映像信号生成部 45 とを備えている。

【0032】

撮像制御部 40 は、撮像素子 34 による観察対象の撮像タイミングを制御する。受信部 41 は、内視鏡 12 の撮像素子 34 から出力されたデジタルの RGB 画像信号を受信する。DSP 42 は、受信した RGB 画像信号に対して、欠陥補正処理、オフセット処理、ゲイン補正処理、リニアマトリクス処理、ガンマ変換処理、及びデモザイク処理等の各種信号処理を施す。

20

【0033】

欠陥補正処理では、撮像素子 34 の欠陥画素の信号が補正される。オフセット処理では、欠陥補正処理が施された RGB 画像信号から暗電流成分が除かれ、正確なゼロレベルが設定される。ゲイン補正処理では、オフセット処理後の RGB 画像信号に特定のゲイン値を乗じることにより信号レベルが整えられる。ゲイン補正処理後の RGB 画像信号には、色再現性を高めるためのリニアマトリクス処理が施される。その後、ガンマ変換処理によって明るさや彩度が整えられる。リニアマトリクス処理後の RGB 画像信号には、デモザイク処理（等方化処理、同時化処理とも称される）が施され、各画素について RGB 各色の信号が生成される。

30

【0034】

ノイズ除去部 43 は、DSP 42 でデモザイク処理等が施された RGB 画像信号に対してノイズ除去処理（移動平均法やメディアンフィルタ法等による処理）を施すことによってノイズを除去する。ノイズが除去された RGB 画像信号は、観察画像生成部 44 に入力される。

【0035】

観察画像生成部 44 は、ノイズ除去部 43 から入力された RGB 画像信号に対して、色変換処理、色彩強調処理、及び構造強調処理を行うことにより、観察画像を生成する。色変換処理では、RGB 画像信号に対して 3×3 のマトリックス処理、階調変換処理、及び 3 次元 LUT（ルックアップテーブル）処理などにより色変換処理を行う。色彩強調処理は、色変換処理済みの RGB 画像信号に対して行われる。構造強調処理は、表層血管やピットパターン等の観察対象の構造を強調する処理であり、色彩強調処理後の RGB 画像信号に対して行われる。

40

【0036】

観察画像生成部 44 が生成する観察画像は、映像信号生成部 45 に入力される。映像信号生成部 45 は、各画像をモニタ 18 に表示するための映像信号に変換する。モニタ 18 は、映像信号生成部 45 から入力される映像信号に基づいて画像表示を行う。

【0037】

図 3 において、撮像素子 34 は、画素アレイ部 50 と、読み出し走査回路 51 と、リセ

50

ット走査回路 5 2 と、カラム A D C (Analog-to-digital converter) 回路 5 3 と、ラインメモリ 5 4 と、列走査回路 5 5 と、タイミングジェネレータ (T G : Timing generator) 5 6 とを有する。T G 5 6 は、プロセッサ装置 1 6 の撮像制御部 4 0 から入力される撮像制御信号に基づいてタイミング信号を発生し、各部を制御する。

【 0 0 3 8 】

画素アレイ部 5 0 は、複数の画素 5 0 a が行方向 (X 方向) 及び列方向 (Y 方向) にマトリクス状に 2 次元配列されたものであり、撮像素子 3 4 の撮像面に設けられている。画素アレイ部 5 0 には、行方向に沿って、第 1 行選択線 L S 1、第 2 行選択線 L S 2、及び行リセット線 L R が配されており、列方向に沿って列信号線 L V が配されている。

【 0 0 3 9 】

第 1 行選択線 L S 1、第 2 行選択線 L S 2、及び行リセット線 L R は、1 画素行毎に設けられている。列信号線 L V は、1 画素列毎に設けられている。ここで、画素行とは、行方向に並んだ 1 行分の画素 5 0 a を指している。画素列とは、列方向に並んだ 1 列分の画素 5 0 a を指している。

【 0 0 4 0 】

画素アレイ部 5 0 の光入射側には、図 4 に示すように、カラーフィルタアレイ 6 0 が設けられている。カラーフィルタアレイ 6 0 は、緑色 (G) フィルタ 6 0 a、青色 (B) フィルタ 6 0 b、及び赤色 (R) フィルタ 6 0 c を有している。これらのフィルタのうちいずれか 1 つが各画素 5 0 a 上に配置されている。カラーフィルタアレイ 6 0 の色配列は、ベイヤー配列であり、G フィルタ 6 0 a が市松状に 1 画素おきに配置され、残りの画素上に、B フィルタ 6 0 b と R フィルタ 6 0 c とがそれぞれ正方格子状となるように配置されている。

【 0 0 4 1 】

カラーフィルタアレイ 6 0 は、図 5 に示す分光特性を有する。G フィルタ 6 0 a は、約 4 5 0 ~ 6 3 0 n m の波長域に対して高い透過率を有している。B フィルタ 6 0 b は、約 3 8 0 ~ 5 6 0 n m の波長域に対して高い透過率を有している。R フィルタ 6 0 c は、約 5 8 0 ~ 7 6 0 n m の波長域に対して高い透過率を有している。

【 0 0 4 2 】

以下、G フィルタ 6 0 a が配置された画素 5 0 a を G 画素と称し、B フィルタ 6 0 b が配置された画素 5 0 a を B 画素と称し、R フィルタ 6 0 c が配置された画素 5 0 a を R 画素と称する。偶数 (0 , 2 , 4 , . . . N - 1) の各画素行には、B 画素と G 画素とが交互に配置されている。奇数 (1 , 3 , 5 , . . . , N) の各画素行には、G 画素と R 画素とが交互に配置されている。

【 0 0 4 3 】

1 画素行内の各画素 5 0 a は、行リセット線 L R に共通に接続されている。また、1 画素行内の画素 5 0 a のうち、G 画素は第 1 行選択線 L S 1 に共通に接続されており、B 画素及び R 画素はそれぞれ第 2 行選択線 L S 2 に共通に接続されている。

【 0 0 4 4 】

各画素 5 0 a は、図 6 に示すように、フォトダイオード D 1 と、アンプトランジスタ M 1 と、画素選択トランジスタ M 2 と、リセットトランジスタ M 3 とを有する。フォトダイオード D 1 は、入射光を光電変換して入射光量に応じた信号電荷を生成し、これを蓄積する。アンプトランジスタ M 1 は、フォトダイオード D 1 に蓄積された信号電荷を電圧値 (画素信号) に変換する。画素選択トランジスタ M 2 は、第 1 行選択線 L S 1 または第 2 行選択線 L S 2 により制御され、アンプトランジスタ M 1 により生成された画素信号を列信号線 L V に出力させる。リセットトランジスタ M 3 は、行リセット線 L R により制御され、フォトダイオード D 1 に蓄積された信号電荷を電源線に破棄 (リセット) する。

【 0 0 4 5 】

読み出し走査回路 5 1 は、T G 5 6 から入力されるタイミング信号に基づいて、行選択信号を発生する。読み出し走査回路 5 1 は、信号読み出し動作時に、第 1 行選択線 L S 1 または第 2 行選択線 L S 2 に行選択信号を与えることにより、行選択信号が与えられた第

10

20

30

40

50

1 行選択線 L S 1 または第 2 行選択線 L S 2 に接続された画素 5 0 a の画素信号を、列信号線 L V に出力させる。

【 0 0 4 6 】

リセット走査回路 5 2 は、T G 5 6 から入力されるタイミング信号に基づいて、リセット信号を発生する。リセット走査回路 5 2 は、リセット動作時に、行リセット線 L R にリセット信号を与えることにより、リセット信号が与えられた行リセット線 L R に接続された画素 5 0 a をリセットする。

【 0 0 4 7 】

カラム A D C 回路 5 3 には、信号読み出し動作時に列信号線 L V に出力された画素信号が入力される。カラム A D C 回路 5 3 は、各列信号線 L V に A D C が接続されてなり、各列信号線 L V から入力される画素信号を、時間とともに階段状に変化する参照信号（ランブ波）と比較することにより、デジタル信号に変換してラインメモリ 5 4 に出力する。

【 0 0 4 8 】

ラインメモリ 5 4 は、カラム A D C 回路 5 3 によりデジタル化された 1 行分の画素信号を保持する。列走査回路 5 5 は、T G 5 6 から入力されるタイミング信号に基づいて、ラインメモリ 5 4 を走査することにより、画素信号を出力端子 V o u t から順に出力させる。出力端子 V o u t から出力される 1 フレーム分の画素信号が前述の R G B 画像信号である。

【 0 0 4 9 】

撮像素子 3 4 は、信号読み出し方式として、「順次読み出し方式」と「部分読み出し方式」が実行可能である。順次読み出し方式では、読み出し走査回路 5 1 により、各画素行の 1 組の第 1 及び第 2 行選択線 L S 1 , L S 2 が順に選択されながら、選択された第 1 及び第 2 行選択線 L S 1 , L S 2 に同時に行選択信号が与えられる。これにより、画素アレイ部 5 0 の全画素 5 0 a について、先頭画素行「0」から最終画素行「N」まで、1 画素行ずつ順に信号読み出しが行われる。

【 0 0 5 0 】

部分読み出し方式では、画素アレイ部 5 0 から特定の 1 色の画素を選択的に読み出すことを可能とする。例えば、画素アレイ部 5 0 から R 画素のみを読み出す場合には、読み出し走査回路 5 1 により、奇数（1, 3, 5, . . . , N）の各画素行の第 2 行選択線 L S 2 のみが順に選択されながら、選択された第 2 行選択線 L S 2 に行選択信号が与えられる。これにより、全画素 5 0 a のうちの R 画素のみについて、1 画素行ずつ順に信号読み出しが行われる。

【 0 0 5 1 】

この場合、ラインメモリ 5 4 には、R 画素から読み出された画素信号（R 画素信号）のみが記憶される。列走査回路 5 5 は、ラインメモリ 5 4 に奇数行から 1 画素行分の画素信号（R 画素信号）が記憶されるたびに、ラインメモリ 5 4 の走査を行う。

【 0 0 5 2 】

また、部分読み出し方式では、画素アレイ部 5 0 から特定の 2 色の画素を選択的に読み出すことを可能とする。例えば、画素アレイ部 5 0 から B 画素及び G 画素を読み出す場合には、読み出し走査回路 5 1 により、偶数（0, 2, 4, . . . N - 1）の各画素行については第 1 及び第 2 行選択線 L S 1 , L S 2 が順に選択され、奇数（1, 3, 5, . . . , N）の各画素行については第 1 行選択線 L S 1 が順に選択されながら、選択された行選択線に行選択信号が与えられる。これにより、全画素 5 0 a のうちの B 画素及び G 画素について、1 画素行ずつ順に信号読み出しが行われる。

【 0 0 5 3 】

この場合、ラインメモリ 5 4 には、偶数の画素行の読み出し時には、B 画素及び G 画素から読み出された画素信号（B 画素信号及び G 画素信号）が記憶され、奇数の画素行の読み出し時には、G 画素から読み出された画素信号（G 画素信号）のみが記憶される。列走査回路 5 5 は、ラインメモリ 5 4 に偶数行または奇数行から 1 画素行分の画素信号が記憶されるたびに、ラインメモリ 5 4 の走査を行う。なお、B 画素及び G 画素を読み出す場合

10

20

30

40

50

には、奇数の画素行の読み出しを行わずに、偶数の画素行のみについて読み出しを行っても良い。

【 0 0 5 4 】

また、撮像素子 3 4 は、リセット方式として、「順次リセット方式」及び「一括リセット方式」が実行可能である。順次リセット方式では、リセット走査回路 5 2 により行リセット線 L R が順に選択されながら、選択された行リセット線 L R にリセット信号が与えられる。これにより、順次リセット方式では、先頭画素行「0」から最終画素行「N」まで、1画素行ずつ順にリセットが行われる。

【 0 0 5 5 】

一括リセット方式では、リセット走査回路 5 2 により全ての行リセット線 L R が選択され、全ての行リセット線 L R に一括してリセット信号が与えられる。これにより、画素アレイ部 5 0 の全画素行が一括して同時にリセットされる。

【 0 0 5 6 】

なお、図 3 には示していないが、撮像素子 3 4 には、相関二重サンプリング (C D S ; Correlated Double Sampling) 回路や、自動利得制御 (A G C ; Automatic Gain Control) 回路も適宜設けられる。C D S 回路は、画素 5 0 a から各列信号線 L V に出力される画素信号に相関二重サンプリング処理を行う。A G C 回路は、相関二重サンプリング処理が行われた画素信号に対してゲイン調整を行う。

【 0 0 5 7 】

光源制御部 2 1 と撮像制御部 4 0 とは互いに電氣的に接続されている。撮像制御部 4 0 は、光源制御部 2 1 により制御される光源装置 1 4 の照明光の発光タイミングに合わせて撮像素子 3 4 の撮像タイミングを制御する。

【 0 0 5 8 】

次に、光源制御部 2 1 及び撮像制御部 4 0 により制御される発光タイミング及び撮像タイミングについて説明する。図 7 に示すように、光源制御部 2 1 は、駆動部 2 2 を制御して、第 1 ~ 第 3 光源 2 3 a ~ 2 3 c に、時刻 t 0 から、赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B の発光を同時に開始させる (発光開始タイミングを同時とする) 。

【 0 0 5 9 】

このとき、光源制御部 2 1 は、青色光 L B の発光強度 I_B を緑色光 L G の発光強度 I_G より大きくし、緑色光 L G の発光強度 I_G を赤色光 L R の発光強度 I_R より大きくする (すなわち、 $I_B > I_G > I_R$) 。これは、観察対象のうち大腸の粘膜組織等は、図 8 に示すように、波長が短いほど光反射率が小さいという特性を有する一方で、粘膜組織の表層からの戻り光は、波長が短い光が支配的であるためである。この粘膜組織の表層には、毛細血管等の微細構造が含まれるので、この微細構造を含めた画像を生成するために、 $I_B > I_G > I_R$ の関係としている。

【 0 0 6 0 】

また、内視鏡 1 2 の先端部 1 2 d 等の過剰な発熱を防止するという観点から、赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B の総光量は一定値以下とすることが好ましい。この総光量の制約により、赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B の全ての発光強度を同時に高めることができないことから、 $I_B > I_G > I_R$ の関係とすることが好ましい。

【 0 0 6 1 】

第 1 ~ 第 3 光源 2 3 a ~ 2 3 c により発せられた赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B は、光路統合部 2 4 で合波されて白色光となり、白色の照明光としてライトガイド 2 5 に供給される。この白色の照明光は、内視鏡 1 2 の先端部 1 2 d から射出されて観察対象を照明する。

【 0 0 6 2 】

撮像制御部 4 0 は、撮像素子 3 4 を制御して、時刻 t 0 から順次リセット方式によりリセット動作を行わせる。これにより、全画素行が 1 画素行ずつ順にリセットされる。各画素行は、リセットにより画素 5 0 a の不要電荷が破棄されることにより、順に電荷蓄積状態 (露光状態) となる。そして、撮像制御部 4 0 は、時刻 t 0 から第 1 の露光時間 T_{E1}

10

20

30

40

50

が経過した後、撮像素子 3 4 を制御して、部分読み出し方式により、B 画素及び G 画素のみの読み出し動作を行わせる。これにより、撮像素子 3 4 からは、デジタル化された B 画素信号及び G 画素信号が出力される。このとき、R 画素の読み出しは行われないので、R 画素は露光状態が継続される。

【 0 0 6 3 】

そして、光源制御部 2 1 は、駆動部 2 2 を制御して、最終画素行 N の読み出しが行われる時刻 t_1 に、第 2 光源 2 3 b 及び第 3 光源 2 3 c の発光動作を停止させ、緑色光 L G 及び青色光 L B の発光を終了させる。

【 0 0 6 4 】

この後、撮像制御部 4 0 は、時刻 t_0 から第 2 の露光時間 T_{E2} が経過した後、撮像素子 3 4 を制御して、部分読み出し方式により、R 画素のみの読み出し動作を行わせる。これにより、撮像素子 3 4 からは、デジタル化された R 画素信号が出力される。そして、光源制御部 2 1 は、駆動部 2 2 を制御して、最終画素行 N の読み出しが行われる時刻 t_2 に、第 1 光源 2 3 a の発光動作を停止させ、赤色光 L R の発光を終了させる。

【 0 0 6 5 】

このように、撮像素子 3 4 の緑色光 L G 及び青色光 L B に対する受光期間は、時刻 t_0 から時刻 t_1 までの期間であり、光源装置 1 4 による緑色光 L G 及び青色光 L B の発光期間とそれぞれ一致している。また、撮像素子 3 4 の赤色光 L R に対する受光期間は、時刻 t_1 から時刻 t_2 までの期間であり、光源装置 1 4 による赤色光 L R の発光期間と一致している。

【 0 0 6 6 】

このように、青色光 L B 及び緑色光 L G の発光時間を、赤色光 L R の発光時間より短くしている理由は、観察対象からの戻り光のうちの青色光 L B 及び緑色光 L G の成分が、粘膜の表層部や中層部の構造に関する画像情報（高周波成分）を多く含み、ブレ（被写体ブレや操作者の手ブレ等）の影響を受けやすいためである。

【 0 0 6 7 】

これに対して、観察対象からの戻り光のうちの赤色光 L R の成分は、粘膜の深層部に関する画像情報（低周波成分）を多く含み、ブレの影響が少ないので、赤色光 L R の発光時間を、青色光 L B 及び緑色光 L G の発光時間より長くして、撮像素子 3 4 の赤色光 L R に対する露光量を増加させることにより、感度アップ（S/N の向上）を図っている。なお、露光量は、光強度と発光時間との積に比例するものである。これにより、R 画像の画質が向上し、観察画像生成部 4 4 における色彩強調処理により高画質な観察画像が得られる。

【 0 0 6 8 】

撮像素子 3 4 は、前述のように、R 画素、G 画素、B 画素を個別に色ごとに分離して読み出すことが可能であり、時刻 t_1 の青色光 L B 及び緑色光 L G の発光終了タイミングに合わせて B 画素信号及び G 画素信号を部分読み出ししているので、暗電流等による不要な電荷の蓄積による B 画素信号及び G 画素信号のノイズの増加が防止される。特に、G 画素は、赤色光 L R に対しても僅かに感度を有するので、緑色光 L G の発光終了タイミングに合わせて G 画素信号を読み出すことで、赤色光 L R 成分によるノイズの増加が効果的に防止される。

【 0 0 6 9 】

以上のように構成された内視鏡システム 1 0 の作用を説明する。まず、操作者により、体腔内に内視鏡 1 2 の挿入部 1 2 a が挿入される。プロセッサ装置 1 6 の操作パネル等が操作されて撮影開始指示がなされると、第 1 ~ 第 3 光源 2 3 a ~ 2 3 c から、青色光 L B、緑色光 L G、赤色光 L R の発光が同時に開始される。発光強度は、 $I_B > I_G > I_R$ の関係を有する。この赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B は、光路統合部 2 4 で合波され、白色の照明光としてライトガイド 2 5 に供給される。この照明光は、内視鏡 1 2 の先端部 1 2 d から射出されて観察対象を照明する。

【 0 0 7 0 】

10

20

30

40

50

撮像素子 3 4 は、青色光 L B、緑色光 L G、赤色光 L R の発光が開始されるとともに、順次リセット方式により全画素行が 1 画素行ずつ順にリセットされる。そして、撮像素子 3 4 は、発光開始時刻 t_0 から第 1 の露光時間 T_{E1} が経過した後、部分読み出し方式により、B 画素及び G 画素のみの読み出し動作を行い、デジタル化された B 画素信号及び G 画素信号を出力する。この B 画素信号及び G 画素信号は、プロセッサ装置 1 6 の DSP 4 2 に入力される。また、第 2 光源 2 3 b 及び第 3 光源 2 3 c は、撮像素子 3 4 による B 画素及び G 画素のみの読み出し動作の終了とともに、緑色光 L G 及び青色光 L B の発光を停止する。

【0071】

そして、撮像素子 3 4 は、発光開始時刻 t_0 から第 2 の露光時間 T_{E2} が経過した後、部分読み出し方式により、R 画素のみの読み出し動作を行い、デジタル化された R 画素信号を出力する。この R 画素信号は、プロセッサ装置 1 6 の DSP 4 2 に入力される。また、第 1 光源 2 3 a は、撮像素子 3 4 による R 画素のみの読み出し動作の終了とともに、赤色光 L R の発光を停止する。

【0072】

この後、DSP 4 2 は、撮像素子 3 4 から入力された B 画素信号、G 画素信号、R 画素信号からなる RGB 画像信号に対して各種信号処理を施す。そして、DSP 4 2 により信号処理が行われた RGB 画像信号は、ノイズ除去部 4 3 によりノイズ除去処理が行われた後、観察画像生成部 4 4 に入力される。観察画像生成部 4 4 は、入力された RGB 画像信号に基づいて観察画像を生成する。この観察画像は、映像信号生成部 4 5 を介してモニタ 1 8 に表示される。以上の動作は、操作者により撮影開始指示がなされるまで、繰り返し周期的に行われ、モニタ 1 8 に表示される観察画像は順次更新される。

【0073】

なお、上記実施形態では、図 7 に示すように、リセット方式として順次リセット方式を用いているが、これに代えて、図 9 に示すように、一括リセット方式を用いても良い。この場合には、撮像制御部 4 0 は、第 1 ~ 第 3 光源 2 3 a ~ 2 3 c が赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B の発光を開始する時刻 t_0 に、一括リセット方式により、撮像素子 3 4 の全画素行をリセットさせる。

【0074】

そして、光源制御部 2 1 は、時刻 t_0 から第 1 の露光時間 T_{E1} が経過した時刻 t_1 に、緑色光 L G 及び青色光 L B の発光を停止させる。このとき、撮像制御部 4 0 は、時刻 t_1 から部分読み出し方式により、B 画素及び G 画素のみの読み出し動作を行わせる。そして、時刻 t_0 から第 2 の露光時間 T_{E2} が経過した時刻 t_2 に、赤色光 L R の発光を停止させる。このとき、撮像制御部 4 0 は、時刻 t_2 から部分読み出し方式により、R 画素のみの読み出し動作を行わせる。その他の動作は、上記実施形態と同一である。

【0075】

このように、図 9 に示す方式では、一括リセットにより全画素行が受光（電荷蓄積）を開始するので、受光開始タイミングが同一であるとともに、各光の発光を停止してから読み出しを行うので、全画素行の受光終了タイミングが色ごとに同一である。したがって、図 9 に示す方式は、いわゆるグローバルシャッタ方式であり、全画素行について受光期間が同一である。

【0076】

これに対して、図 7 に示す方式は、ローリングシャッタ方式であって、受光期間が画素行ごとに異なる。これに対して、図 9 に示す方式は、グローバルシャッタ方式であるので、全画素行の色ごとの受光期間が同一である（いわゆる同時性が得られる）。また、図 9 に示すグローバルシャッタ方式は、同時性が得られること以外に、ローリングシャッタ方式に比べて、第 1 及び第 2 の露光時間 T_{E1} 、 T_{E2} が長く、露光量が増加するという利点がある。

【0077】

また、上記実施形態では、赤色光 L R の発光強度 I_R を、青色光 L B 及び緑色光 L G の

発光が終了した後においても一定としているが、図 10 に示すように、青色光 L B 及び緑色光 L G の発光終了後に、赤色光 L R の発光強度 I_R を大きくしても良い。なお、青色光 L B 及び緑色光 L G の発光終了後に、赤色光 L R の発光強度 I_R を大きくすることは、青色光 L B 及び緑色光 L G の発光終了と同時に、赤色光 L R の発光強度 I_R を大きくすることを含む。

【0078】

これは、赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B が同時に発光される期間（時刻 t_0 から時刻 t_1 の期間）では、赤色光 L R、緑色光 L G、青色光 L B の総光量を一定値以下としなければならないという制約から、 $I_B > I_G > I_R$ の関係を満たす必要があり、赤色光 L R の発光強度 I_R を大きくすることはできないが、緑色光 L G 及び青色光 L B の発光が終了した後（時刻 t_1 以降）は、上記制約がなく、赤色光 L R の発光強度 I_R を大きくすることが可能であるためである。

10

【0079】

このように、緑色光 L G 及び青色光 L B の発光終了後に赤色光 L R の発光強度 I_R を大きくすることで、所定の露光量を得るための赤色光 L R の発光時間を短くすることが可能となり、赤色画像に対するブレの影響を抑えることができる。

【0080】

また、図 10 に示す例では、グローバルシャッタ方式を用いているが、これは、図 11 に示すように、ローリングシャッタ方式を用いた場合には、先頭画素行に近い画素行ほど、赤色光 L R の発光強度 I_R が変更されてから短い時間で R 画素が読み出され、先頭画素行に近い画素行ほど R 画素の露光量が小さくなるためである。これに対して、図 10 に示すグローバルシャッタ方式では、赤色光 L R の発光強度 I_R を変化させた場合でも同時性が得られるという利点がある。

20

【0081】

また、図 10 に示す例では、青色光 L B と緑色光 L G との発光終了タイミングを同時としているが、青色光 L B と緑色光 L G との発光終了タイミングを異ならせても良い。例えば、図 12 に示すように、発光終了タイミングを、青色光 L B、緑色光 L G、赤色光 L R の順とし、青色光 L B の発光終了後に緑色光 L G の発光強度 I_G を大きくし、緑色光 L G の発光終了後に赤色光 L R の発光強度 I_R を大きくしても良い。この場合には、撮像素子 34 は、各光の発光終了タイミングに合わせて、部分読み出し方式により、B 画素信号、G 画素信号、R 画素信号をそれぞれ個別に読み出せば良い。

30

【0082】

さらに、図 13 に示すように、発光終了タイミングを、青色光 L B、緑色光 L G、赤色光 L R の順とし、青色光 L B の発光終了後に、緑色光 L G の発光強度 I_G と赤色光 L R の発光強度 I_R とを大きくし、緑色光 L G の発光終了後に、赤色光 L R の発光強度 I_R をさらに大きくしても良い。

【0083】

[第2実施形態]

上記第1実施形態では、撮像素子 34 が、画素信号を、色ごとに部分読み出しを行うことを可能とすることにより、色ごとの露光時間の変更を可能としているが、これに代えて、第2実施形態では、色ごとに部分リセットを行うことを可能とすることにより、色ごとの露光時間の変更を可能とする。

40

【0084】

第2実施形態では、第1実施形態の撮像素子 34 に代えて、図 14 及び図 15 に示す撮像素子 70 を用いる。撮像素子 70 は、単一の行選択線 L S を有し、1 画素行内の各画素 50 a は、行選択線 L S に共通に接続されている。また、撮像素子 70 は、第1行リセット線 L R 1 及び第2行リセット線 L R 2 を有し、G 画素は第1行リセット線 L R 1 に共通に接続されており、B 画素及び R 画素はそれぞれ第2行リセット線 L R 2 に共通に接続されている。

【0085】

50

読み出し走査回路 51 は、信号読み出し動作時に、行選択線 LS に順に行選択信号を与え、1 画素行ずつ順に画素信号を読み出す「順次読み出し」を行わせる。リセット走査回路 52 は、リセット動作時に、第 1 行リセット線 LR1 または第 2 行リセット線 LR2 にリセット信号を与えることにより、リセット信号が与えられた第 1 行リセット線 LR1 または第 2 行リセット線 LR2 に接続された画素 50a をリセットする。撮像素子 70 のその他の構成は、第 1 実施形態の撮像素子 34 と同一である。

【0086】

撮像素子 70 は、全ての第 1 行リセット線 LR1 に同時にリセット信号を与えることにより、G 画素のみを一括してリセットすることを可能とする。また、撮像素子 70 は、偶数行の第 2 行リセット線 LR2 に同時にリセット信号を与えることにより、B 画素のみを一括してリセットすることを可能とし、奇数行の第 2 行リセット線 LR2 に同時にリセット信号を与えることにより、R 画素のみを一括してリセットすることを可能とする。さらに、撮像素子 70 は、全ての第 1 行リセット線 LR1 及び第 2 行リセット線 LR2 に同時にリセット信号を与えることにより、全画素行を一括して同時にリセットすることを可能とする。

10

【0087】

第 2 実施形態では、図 16 に示すように、光源制御部 21 は、時刻 t_0 から第 1 光源 23a に赤色光 LR を発光させる。また、撮像制御部 40 は、時刻 t_0 に赤色光 LR の発光が開始されるとともに、撮像素子 34 に、全画素行を一括して同時にリセットさせる。そして、光源制御部 21 は、赤色光 LR を発光させたまま、時刻 t_1 から第 2 光源 23b 及び第 3 光源 23c に緑色光 LG 及び青色光 LB の発光を開始させる。また、時刻 t_1 に緑色光 LG 及び青色光 LB の発光が開始されるとともに、撮像素子 34 に、B 画素及び G 画素のみを一括して同時にリセット（部分リセット）させる。

20

【0088】

この後、光源制御部 21 は、時刻 t_2 に、第 1 ～ 第 3 光源 23a ～ 23c の発光動作を停止させ、青色光 LB、緑色光 LG、赤色光 LR の発光を終了させる（発光終了タイミングを同時とする）。そして、撮像制御部 40 は、撮像素子 34 に、時刻 t_2 から順次読み出し方式により、B 画素、G 画素、R 画素のすべてを読み出させる。

【0089】

このように、第 2 実施形態は、グローバルシャッタ方式であり、時刻 t_1 から時刻 t_2 までの時間が、B 画素及び G 画素に対する第 1 の露光時間 T_{E1} であり、時刻 t_0 から時刻 t_2 までの時間が、R 画素に対する第 2 の露光時間 T_{E2} である。

30

【0090】

なお、第 2 実施形態では、時刻 t_0 から時刻 t_1 までの期間は、赤色光 LR の単独発光であるので、図 17 に示すように、赤色光 LR の発光を開始し、赤色光 LR の発光強度 I_R を下げた後、緑色光 LG 及び青色光 LB の発光を開始しても良い。

【0091】

また、図 18 に示すように、赤色光 LR の発光を開始し、赤色光 LR の発光強度 I_R を下げた後、緑色光 LG の発光を開始し、緑色光 LG の発光強度 I_G を下げた後、青色光 LB の発光を開始しても良い。この場合、G 画素と B 画素とは、それぞれ個別に、緑色光 LG と青色光 LB の発光タイミングに合わせて部分リセットすれば良い。

40

【0092】

さらに、図 19 に示すように、赤色光 LR の発光を開始し、赤色光 LR の発光強度 I_R を下げた後、緑色光 LG の発光を開始し、緑色光 LG の発光強度 I_G に加えて、赤色光 LR の発光強度 I_R をさらに下げた後、青色光 LB の発光を開始しても良い。

【0093】

また、第 1 実施形態では、R 画素、G 画素、B 画素を個別に色ごとに読み出すことを可能とする撮像素子 34 を用い、第 2 実施形態では、R 画素、G 画素、B 画素を個別に色ごとにリセットすることを可能とする撮像素子 70 を用いているが、これらの撮像素子 34、70 に代えて、R 画素、G 画素、B 画素を個別に色ごとに読み出し及びリセットを行う

50

ことを可能とする撮像素子を用いても良い。この場合には、露光期間の開始及び終了タイミングを、色ごとに自由に設定することができる。

【0094】

上記各実施形態では、光源装置14とプロセッサ装置16とを別体構成としているが、光源装置とプロセッサ装置とを1つの装置で構成しても良い。

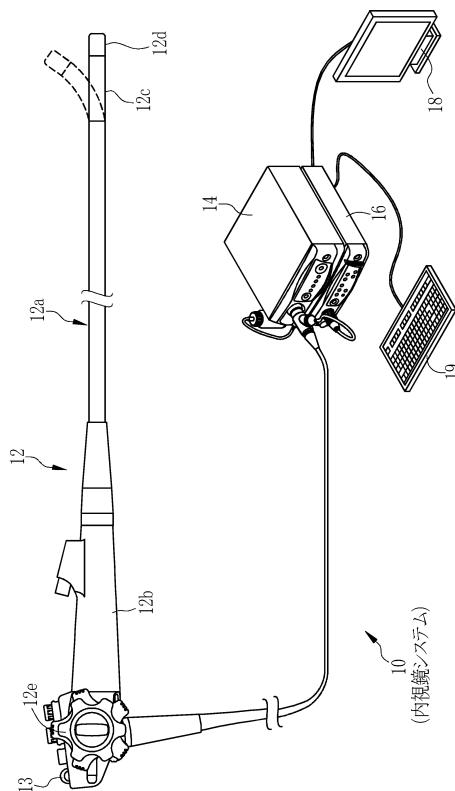
【符号の説明】

【0095】

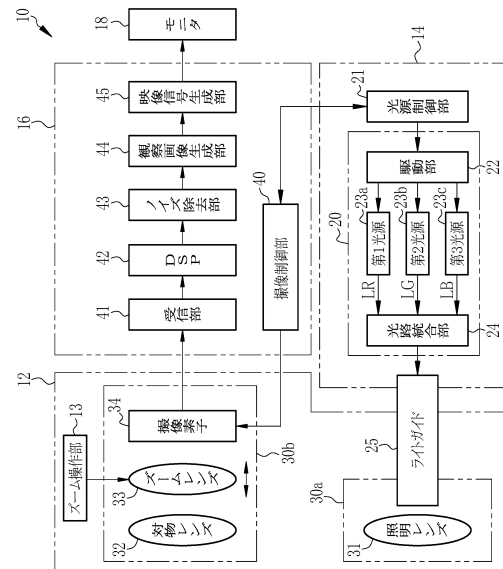
- 10 内視鏡システム
- 14 光源装置
- 16 プロセッサ装置
- 20 光源部
- 21 光源制御部
- 25 ライトガイド
- 34 撮像素子
- 40 撮像制御部

10

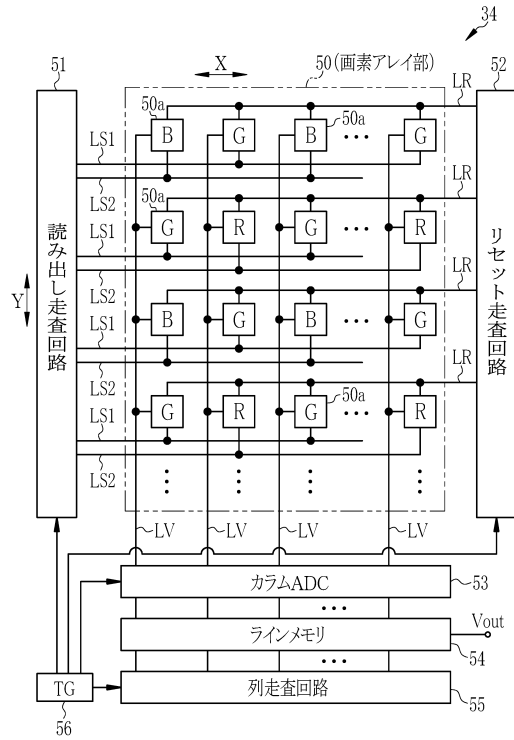
【図1】



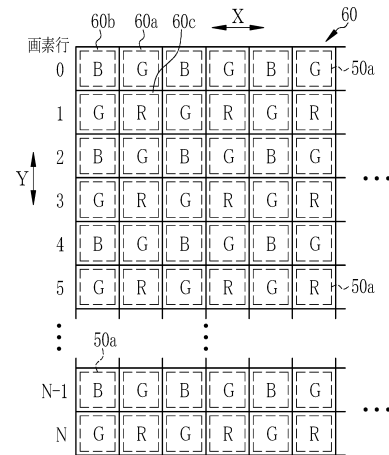
【図2】



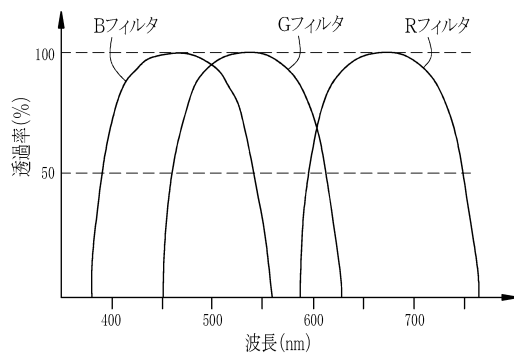
【図 3】



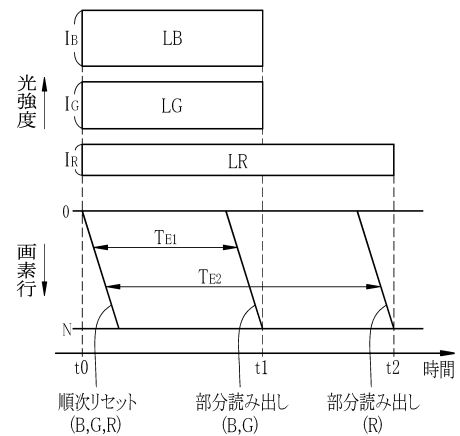
【図 4】



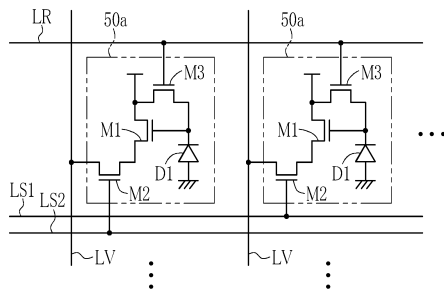
【図 5】



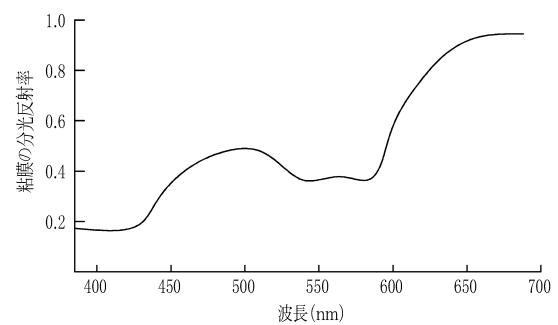
【図 7】



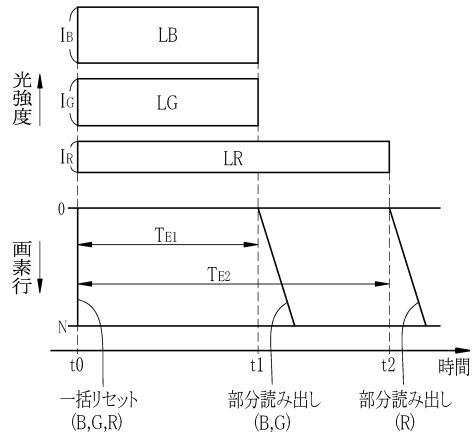
【図 6】



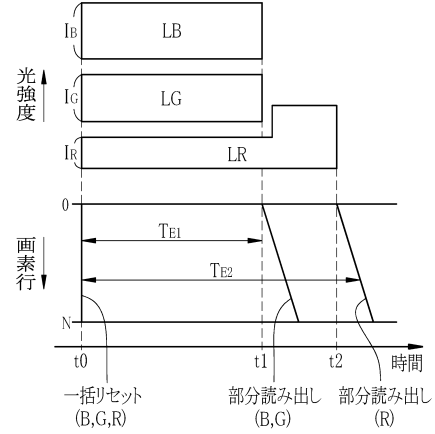
【図 8】



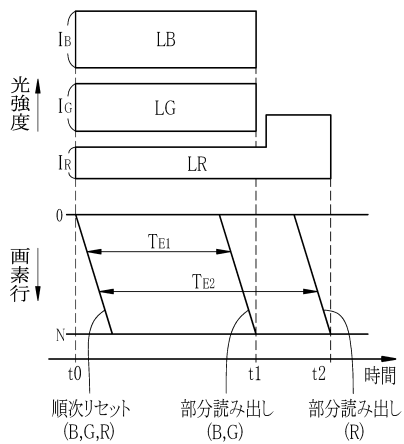
【図 9】



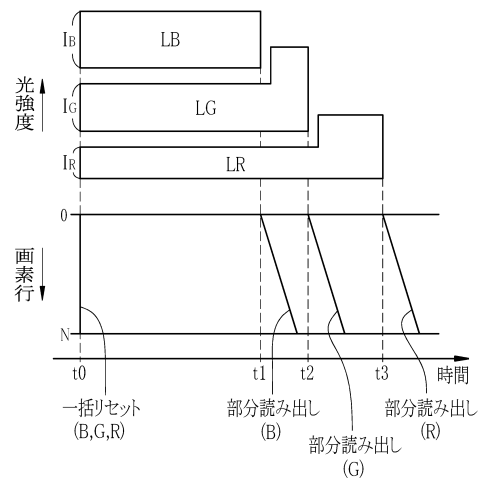
【図 10】



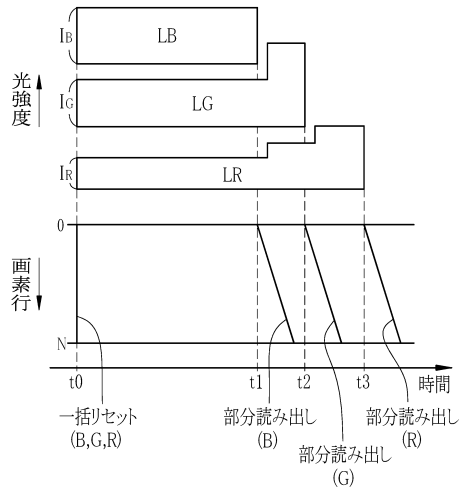
【図 11】



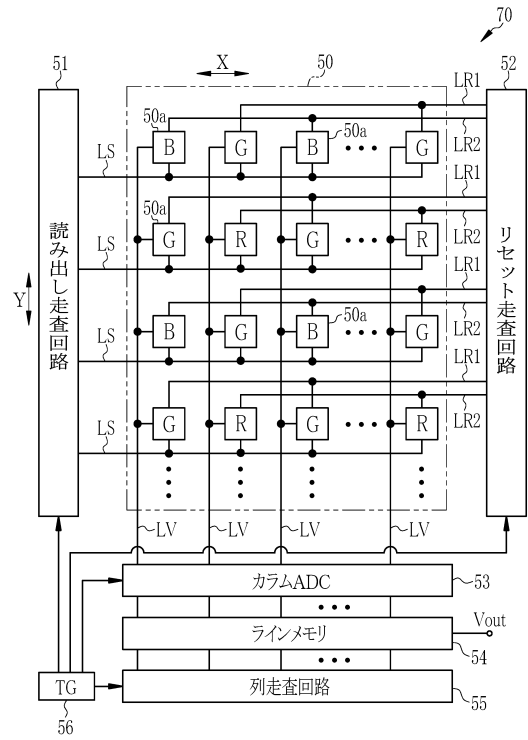
【図 12】



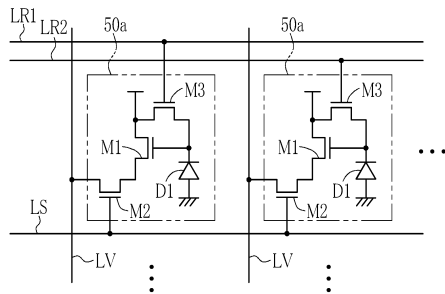
【図 13】



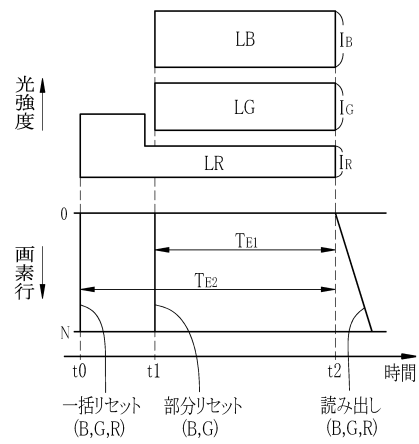
【図 14】



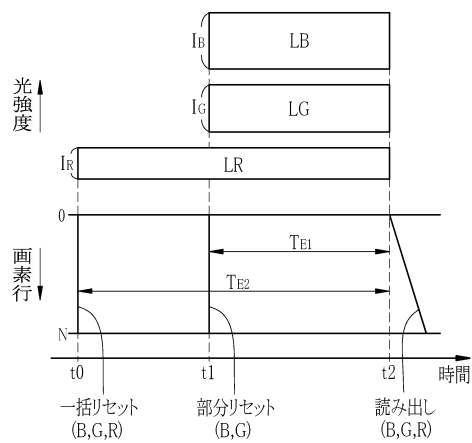
【図 15】



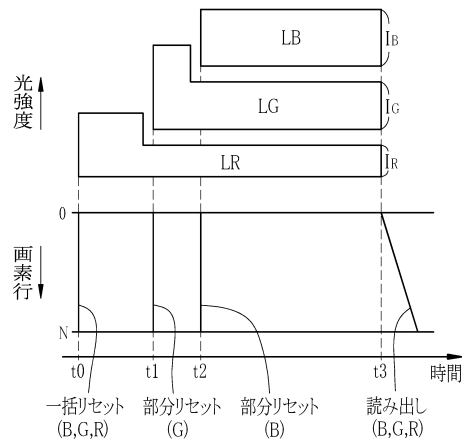
【図 17】



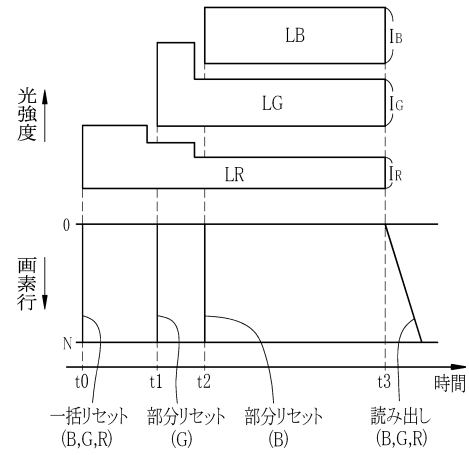
【図 16】



【図 18】



【図 19】



专利名称(译)	内窥镜光源装置，内窥镜系统及其操作方法		
公开(公告)号	JP6355531B2	公开(公告)日	2018-07-11
申请号	JP2014225928	申请日	2014-11-06
[标]申请(专利权)人(译)	富士胶片株式会社		
申请(专利权)人(译)	富士胶片株式会社		
当前申请(专利权)人(译)	富士胶片株式会社		
[标]发明人	久保雅裕		
发明人	久保 雅裕		
IPC分类号	A61B1/045 A61B1/06 G02B23/26		
CPC分类号	A61B1/045 A61B1/0638 G02B23/2461 H04N5/2256 H04N5/3537 H04N9/045 H04N9/07 H04N2005/2255 H04N2209/043 H04N2209/045 H05B45/20 H05B47/16 Y02B20/42		
FI分类号	A61B1/045.631 A61B1/06.611 G02B23/26.D A61B1/045.610 A61B1/06.A A61B1/06.B A61B1/06.510 A61B1/06.612 A61B1/07.730		
F-TERM分类号	4C161/BB02 4C161/CC06 4C161/DD03 4C161/GG01 4C161/LL02 4C161/NN01 4C161/QQ07 4C161/RR02 4C161/RR03 4C161/RR04 4C161/RR05 4C161/RR26 4C161/SS06 4C161/TT03 4C161/TT13		
其他公开文献	JP2016087135A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

甲改善红色的图像的质量，能够通过颜色增强处理获得高质量的观察图像的内窥镜光源装置提供的内窥镜系统及其操作方法。光源单元包括发射红光LR的第一光源，发射绿光LG的第二光源，以及发射蓝光LB的第三光源，并包括红光LR，绿光LG，蓝光LB作为照明光。光源控制单元控制照明光的发光定时，红色光LR，绿光LG，蓝光LB和同时的发射开始定时或发光结束定时，以及绿色光的红色光LR的光发射时间LG并且蓝光LB的发射时间。图像拾取元件可以接收来自用每种颜色的照明光照射的观察目标的返回光，并且可以针对每种颜色改变光接收时段。成像控制单元使得至少成像元件的红光LR的光接收时段与红光LR的发光时段一致。

(19) 日本国特許庁(JP)	(12) 特 許 公 報(B2)	(11) 特許番号 特許第6355531号 (P6355531)
(45) 発行日 平成30年7月11日(2018.7.11)	(24) 登録日 平成30年6月22日(2018.6.22)	
(51) Int. Cl. A 6 1 B 1/045 (2006.01) A 6 1 B 1/06 (2006.01) G 0 2 B 23/26 (2006.01)	F I A 6 1 B 1/045 6 3 1 A 6 1 B 1/06 6 1 1 G 0 2 B 23/26 D	
請求項の数 8 (全 18 頁)		
(21) 出願番号 特願2014-225928 (P2014-225928)	(73) 特許権者 306037311 富士フイルム株式会社	
(22) 出願日 平成26年11月6日(2014.11.6)	東京都港区西麻布2丁目2番30号	
(65) 公開番号 特開2016-87135 (P2016-87135A)	(74) 代理人 110001988 特許業務法人小林国際特許事務所	
(43) 公開日 平成28年5月23日(2016.5.23)	(72) 発明者 久保 雅裕 神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 富士フイルム株式会社内	
審査請求日 平成29年2月10日(2017.2.10)	審査官 磯野 光司	
	(56) 参考文献 米国特許出願公開第2014/0163319 (US, A1)	
	(58) 調査した分野(Int. Cl., DB名) A 6 1 B 1/00-1/32	
(54) 【発明の名称】 内視鏡用光源装置、内視鏡システム及びその操作方法		